

しも ぎり

下切遺跡現地説明会

とう さん どう ひ だ し ろ

～東山道飛騨支路整備に関わる人々の集落跡か～

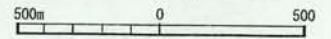


東山道飛騨支路沿いに営まれたと思われる古代集落跡



調査地点の位置

1 : 25, 000



～遺跡調査の概要～

所在地

下呂市金山町中切

調査面積

2, 300 m²

事業者

中部地方整備局高山国道事務所

調査原因

国道 41 号下原改良

調査期間

平成 20 年 4 月 30 日～

平成 20 年 11 月中旬 (予定)

～今回の調査で見つかった遺構と遺物～(10月10日現在)

主な遺構

| | |
|--------|----------------------|
| 竪穴住居跡 | 14 軒 (縄文時代前期後半～平安時代) |
| 礎石建物跡 | 1 軒 (中近世か) |
| 掘立柱建物跡 | 3 軒 (中近世か) |
| 柵跡 | 5 基 (中近世か) |
| 土坑 | 約 700 基 |

主な出土遺物

| | |
|-------------------------|------------|
| 縄文土器 | 約 300 点 |
| 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・天目茶碗など | 約 2, 500 点 |
| 石器 (砥石・石鏃・打製石斧・石匙など) | 約 700 点 |
| 金属製品 (銭・釘など) | 約 50 点 |

整然と南北に軒を連ねる 古代竪穴住居跡



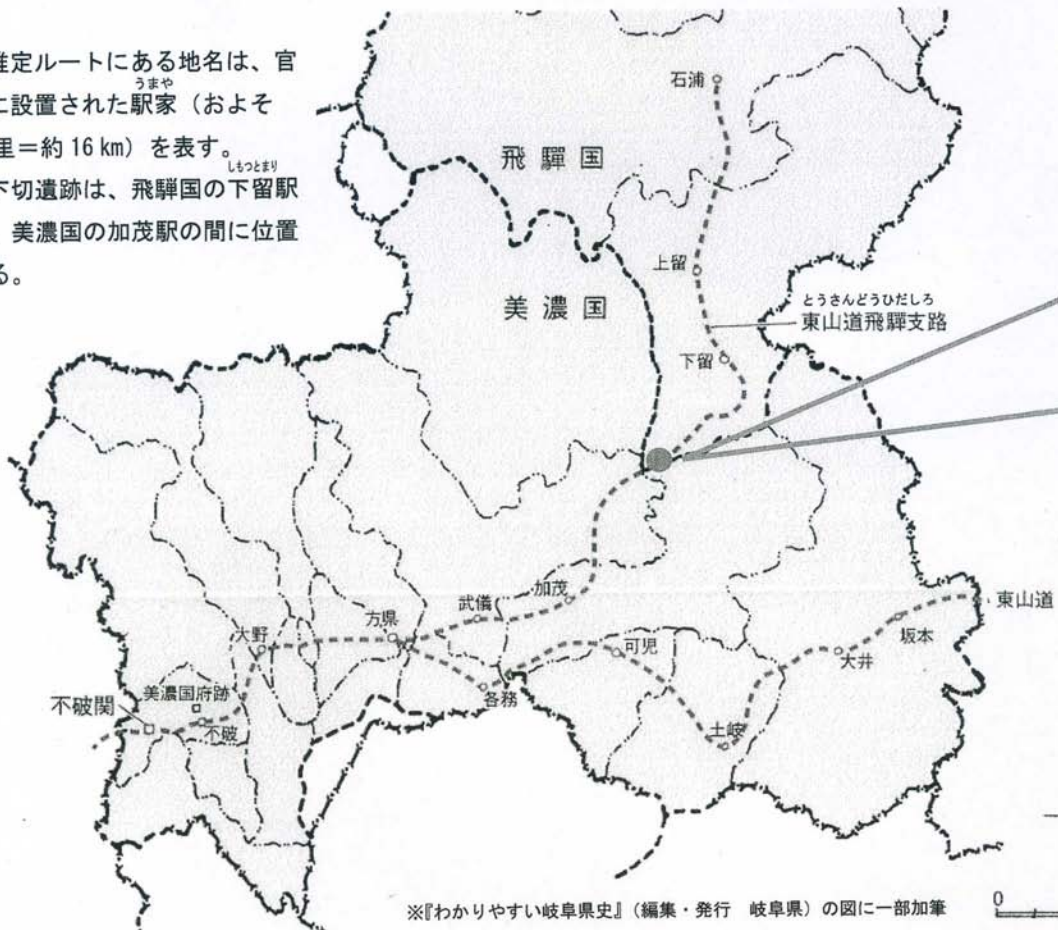
竪穴住居跡の真ん中に、
人が立っているんだよ。



(南から：右上が国道 41 号)

推定ルートにある地名は、官
道に設置された駅うまや家（およそ
30 里=約 16 km）を表す。

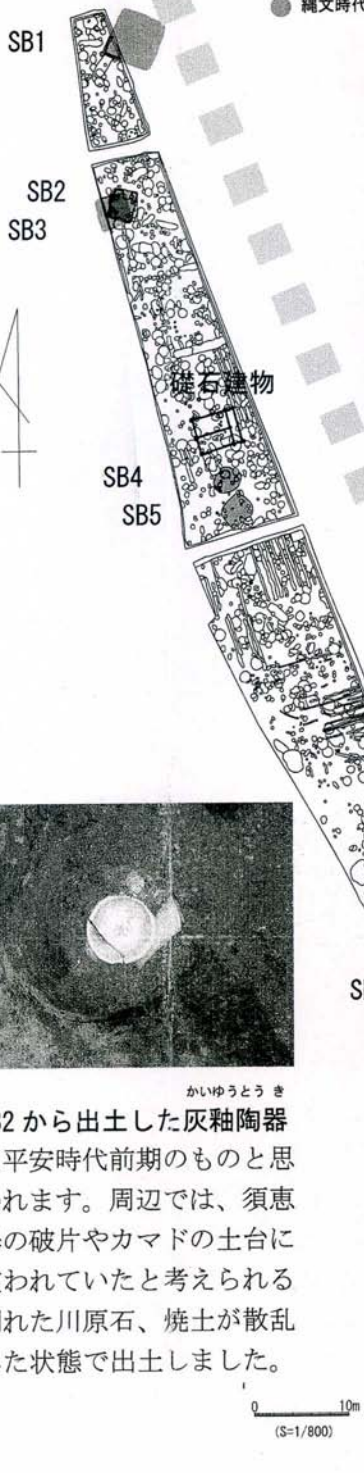
下切遺跡は、飛驒国の下留しもつとまり駅
と、美濃国の加茂駅の間に位置
する。



下切遺跡（北地区）概略図

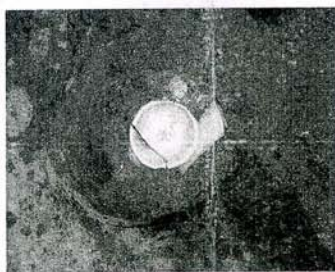
- 古代の竪穴住居跡
- 縄文時代の竪穴住居跡

※SBとは「竪穴住居跡」を表す記号、
北から順に1～14の仮番号を付与。



SB6 掘削風景（南西から）

※北側の壁際中央にカマドを備えた竪穴住居跡です。硬く踏み固められた土（貼床）を確認しました。また、壁際ではほぼ同じ幅の細い溝（周壁溝）がありました。竪穴の壁が崩れないように、壁際に沿って板を立てていたと思われます。



かいゆうとうき

SB2 から出土した灰釉陶器
※平安時代前期のものと思われる。周辺では、須恵器の破片やカマドの土台に使われていたと考えられる割れた川原石、焼土が散乱した状態で出土しました。

0 10m
(S=1/800)

東山道飛驒支路
推定ルート

破線枠内は、埋め戻し完了地点

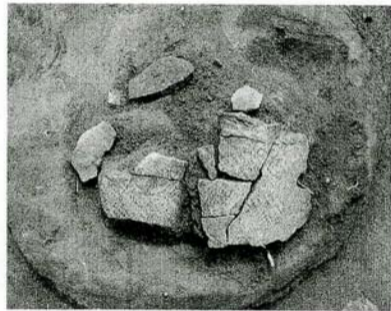
〈発見した竪穴住居跡の一覧〉

※10月10日現在

| | 形状 | 規模 | 時期 | 主な出土遺物 |
|-------|-----------------|----------------------------------|----------------------|------------------------|
| SB 1 | 方形 | <u>一辺</u> 2m以上 | 古代 | 土師器、砥石 |
| SB 2 | 方形 | <u>長辺</u> 約3m <u>短辺</u> 約3m | 古代 | 灰釉陶器、須恵器 土師器（カマド付属） |
| SB 3 | 方形 | <u>一辺</u> 約3m | 古代 | 特になし |
| SB 4 | 円形 | <u>長径</u> 約3m <u>短径</u> 約2.7m | 縄文 時代 | 縄文土器 |
| SB 5 | 円形に 近い 方形 | <u>長辺</u> 約3m <u>短辺</u> 約3m | 縄文 時代 前期 後半 | 縄文土器 |
| SB 6 | 方形 | <u>長辺</u> 約5m <u>短辺</u> 約5m | 古代 | 灰釉陶器、須恵器 土師器（カマド付属） |
| SB 7 | 方形 | <u>一辺</u> 約4m | 古代 | ※調査中 |
| SB 8 | 円形 | <u>長径</u> 約4m <u>短径</u> 約3m | 縄文 時代 | 縄文土器 |
| SB 9 | 方形 | <u>長辺</u> 約5m <u>短辺</u> 約4m | 古代 | ※調査中 （カマド付属） |
| SB 10 | 方形 | <u>一辺</u> 2.6m以上 | 古代 | ※調査中 |
| SB 11 | 円形 | <u>一辺</u> 3m以上 | 縄文 時代 | 縄文土器 |
| SB 12 | 方形 | <u>長辺</u> 約4m <u>短辺</u> 約3m | 古代 | ※調査中 （カマド付属） |
| SB 13 | 方形 | <u>一辺</u> 3m以上 | 古代 | ※調査中 （カマド付属） |
| SB 14 | 方形 | <u>一辺</u> 約3m | 古代 | 灰釉陶器、須恵器、 土師器 |

縄文時代の竪穴住居跡も発見！

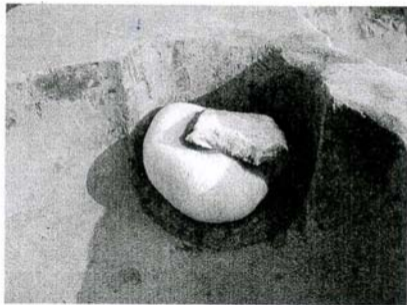
縄文時代の竪穴住居跡は4軒見つかりました。どれも円形のお皿のような穴で、壁面は緩やかに傾斜しています。SB5では、貼床面のほぼ直上で、縄文土器や石器が出土しました。縄文土器は、割れた状態で出土しましたが、その文様から縄文時代前期後半のものと分かりました。



SB5 から出土した縄文土器

中近世の礎石^{そ せき}建物を発見！

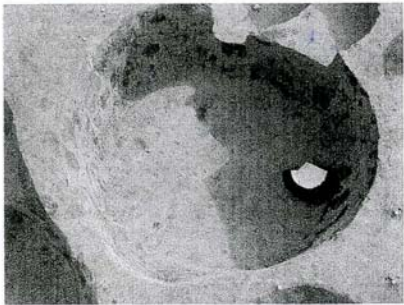
北地区の中央やや北寄りにおいて、礎石を持つ土坑の並びを確認しました。扁平な川原石や角礫が、土坑の中にほぼ水平に置かれています。中近世の礎石建物と考えられます。



2段重ねの礎石を持つ土坑

中近世の貯蔵穴を発見！

調査区全体において、径1 m前後の円形状をした土坑が多数見つかりました。壁面がやや内側に傾き、底面はほぼ平らに掘られています。袋状の穴になっているものもいくつか見られ、貯蔵穴と考えられます。山^{やま}茶^{ちゃ}碗^{わん}や天^{てん}目^{もく}茶^{ちゃ}碗^{わん}などの中近世陶器が出土しました。

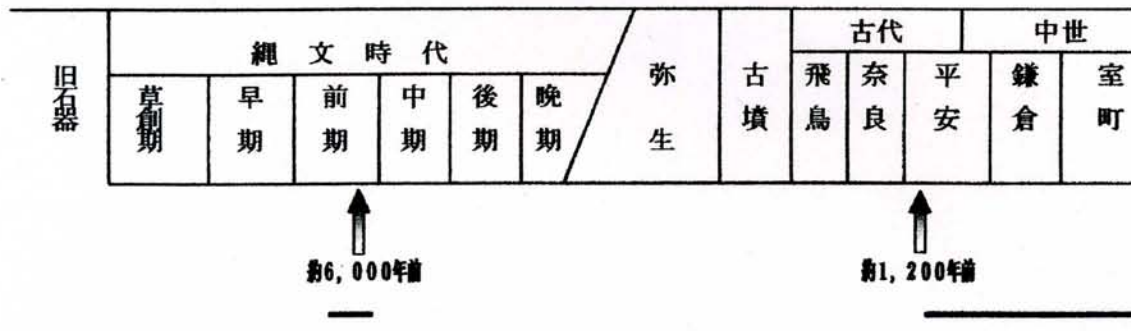


山^{やま}茶^{ちゃ}碗^{わん}が出土した貯蔵穴

まとめ

下切遺跡は、東山道飛驒支路を背景に営まれた古代集落跡と考えられます。カマドを備えた竪穴住居跡は、東山道飛驒支路と推定される場所の西側に、整然と並んでいます。いずれも9世紀前半の所産であり、律令政府による官道整備に携わった人々の営み、あるいは、官道が整備されてから移り住んだ人々の営みによるものである可能性が考えられます。東山道飛驒支路沿いにおける古代集落跡の確認は、県内初の事例であり、律令政府による地方の官道整備の時期を示す貴重な資料になると考えられます。

下切遺跡に人々の営みがあった時期：——



用語説明

【東山道飛驒支路】 奈良～平安時代にかけて、中央（律令政府）と飛驒国を結んだ官道。現在の岐阜市内で東山道から枝分かれをして、関市・下呂市を経て高山市へ至る。

※東山道：古代において、「道」といった場合、美濃・信濃などが含まれる行政区画名を表す場合と、そこを通過する主要官道を表す場合の2通りがある。この資料では後者の意味で用いている。東山道は、近江国から美濃国を経て東日本を縦断し、陸奥国（今の福島県以北）に至っていた古代の主要官道である。

- 【 駅家（駅） 】 古代の主要官道を往来する仕事をする人々に対して、駅馬を用意して乗り継ぎの世話をしたり、食料の供給、宿泊所の提供などを行った機関。駅家の近辺の家（駅戸）が駅家の維持管理を行った。
- 【 竪穴住居跡 】 地面を掘り窪め、その底面を平らにして床をつくり、その上に屋根をかけた半地下構造の住居の跡。
- 【 カマド 】 古代の竪穴住居跡に見られる炊事施設。入口の反対側の壁際に備えられ、煙道を通して、煙は屋外へ排出される仕組みになっていることが多い。
- 【 礎石 】 建物の柱を立てる位置に、扁平な石を置き、屋根の重みにより柱が地中に沈むことを防ぐための石。当遺跡では、穴を掘り窪めて配置している。
- 【 根石 】 礎石の水平と高さを調節するためにその下や周辺にすえる石。
- 【 掘立柱建物 】 地面に穴を掘り、柱を埋めて立てた建物。
- 【 貯蔵穴 】 地面を掘って食料や器物などを貯蔵・格納する穴蔵。縄文時代に始まって現代まである。
- 【 土坑 】 人が意図的に掘った穴の総称。墓穴用、貯蔵用、ごみ捨て用、粘土採掘用、掘立柱用などさまざまなものがある。
- 【 須恵器 】 古墳～平安時代の青灰色で高温で焼き上げられた器。
- 【 土師器 】 弥生土器の系譜をひく、古墳～平安時代の軟質で素焼きの器。
- 【 灰釉陶器 】 植物の灰を主成分とした釉薬をかけて、高火度で焼き上げられた陶器。
- 【 縄文土器 】 約16,000年前から約2,300年前に作られたといわれる素焼きの土器。
- 【 天目茶碗 】 鉄やマンガンを含んだ黒色に発色する釉薬をかけた陶器。
- 【 打製石斧 】 石を打ちかいて斧の形に仕上げたもの。土掘り具として用いられた。
- 【 石鏃 】 石を打ちかいて仕上げた弓矢の先につける鏃。
- 【 石匙 】 縄文時代の打製石器の一種。剥片の一端につまみ状の突起をつくりだした形態が特徴。